

‘地元に戻ろう’基礎講座 授業概要

文責 田無スマイル大学 富沢木実

1日目 (12月15日)

オリエンテーションと自己紹介、地域で活動すること

1. 自己紹介

スタッフ入れて8人で次のアンケートに記入後、それをもとに自己紹介をしました。

- (ア) ①「西東京市」に在住して何年ですか、②何町にお住まいですか、③「西東京市」に愛着はありますか、④故郷はどちらですか、⑤これまでどのようなお仕事をされてこられましたか（〇〇銀行というのではなく、銀行の営業畑という答え方）、⑥今後10年、どのように暮らしたいですか（現実味が無くてもOK）



- (イ) ③の愛着については、2人の方が「特にない」、1名の方が「これまではなかったが、傾聴ボランティアを始め、いろいろな方と出会うなかで、愛着を感じるようになり、ここが終の住み家になるのかなあと感じ始めた」と答えられました。（残りの方は愛着あり）
- (ウ) ⑥の今後10年については、皆さん、「健康で楽しく、うまい酒を飲める身体に」、「好きなことをして毎日充足感、充実感を味わう」、「しばらくは、地域活動4割、今の職場2割、その他稼ぎたい4割」、「死ぬまで元気で・・・ただし老害にならないよう意識しながら」といったご意見でした。

2. 地域で活動すること

その後、模造紙に書き込みながら、地域で活動するというについていろいろと話し合いました。

(ア) 先日の第一回「西東京おとば」で基調講演をした堀池さんから、あなたはいつも過去の話をしている。「未来の話」をしないさいよと叱られる。

(イ) 男の人は、肩書や過去にこだわり、女性を見下してコピーを頼むなどしがち。地域社会では、やることに共感すると、命令ではなく、皆が助けてくれる。

(ウ) 社協の講座などから、地域福祉関係のボランティアなどを始めると、次から次へと広がって、自分のやりたい勉強や趣味の時間を減らすことになってしまう。

(エ) このご意見に対し、行政や社協は、予算が限られるなか、市民の力でそれを補おうという仕組みづくりを進めている。今は元気でも、将来、自分もお世話になるのではないかとの考えから、少し係ると足が抜けなくなる。自分らしく、自分のやりたいことをやれるのは、定年退職後の今しかないのだから、そちらに流されるのも問題かもという意見も出ました。

(オ) 毎朝ゲートボールをしている方がおられ、必ず毎朝行って、仲間を出迎える。いつもいける場所があると、行きやすくなり、そこに挨拶やお茶のみがはじまってコミュニティが出来てくる（被災地でもそう）。建物はあっても人がいない場所より、人がいることが大切。ゲートボールが一步何かに変われると良いとの感想も。

(カ) 地域の老人クラブやボランティアグループでも「老害」がある。どこかの老人会でクーデターが起きて若返ったら良くなったという話もある。そういえば、現在あるNPOの多くは、もちあがり、新陳代謝がないとの話も。



交流会風景